

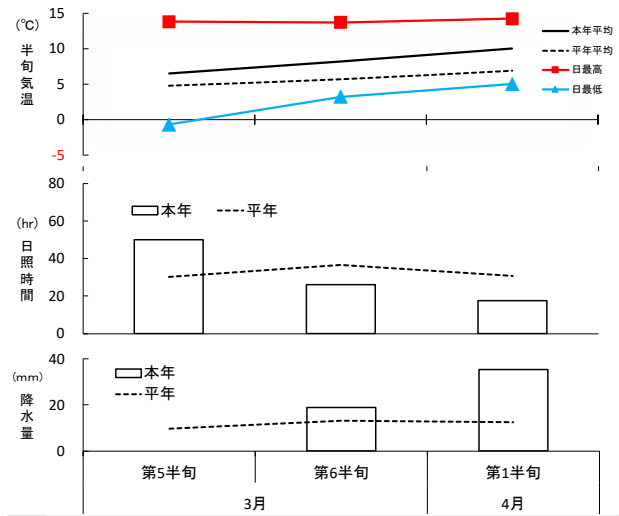
令和7年播種（令和8年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔4月10日調査結果〕

*実際の調査日は4月9日

1 気象概況〔3月第5半旬～4月第1半旬〕(図1)

* 平年値は気象庁アメダスの1991～2020年データの平均値を用いている。

- 平均気温は、期間を通じて平年より高く推移した。
- 日照時間は、3月第5半旬は平年より長く、3月第6半旬、4月第1半旬は平年より短かった。
- 降水量は、3月第5半旬が平年より少なく、3月第6半旬、4月第1半旬で平年より多く推移した。



2 生育概況

1) 4月9日現在の生育状況（表1）

10月中旬播種区

- 草丈は、大麦では、「シュンライ」、「ミノリムギ」が平年より短く（平年比シュンライ 78%、ミノリムギ 81%）、「ホワイトファイバー」は前年並（前年比 102%）であった。小麦では「シラネコムギ」が平年より短く（平年比 75%）、「夏黄金」は平年よりやや長かった（平年比 105%）。
- 茎数は、大麦では、「シュンライ」、「ミノリムギ」が平年より少なく（平年比シュンライ 68%、ミノリムギ 81%）、「ホワイトファイバー」は前年より少なかった（前年比 61%）。小麦では、「シラネコムギ」が平年より多く（平年比 110%）、「夏黄金」が平年並（平年比 97%）であった。
- 葉数は、大麦では「シュンライ」が 10.8 枚（平年差+0.4 枚）、「ミノリムギ」が 9.8 枚（平年差-0.9 枚）、「ホワイトファイバー」が 10.0 枚（前年差-0.5 枚）、小麦では「シラネコムギ」が 9.8 枚（平年差+0.2 枚）、「夏黄金」が 9.5 枚（平年差-0.1 枚）であった。
- 葉色（SPAD 値）は、大麦は「シュンライ」が 35.2、「ミノリムギ」が 38.8、「ホワイトファイバー」が 39.5、小麦は「シラネコムギ」が 37.1、「夏黄金」が 39.7 であった。

10月下旬播種区

- 草丈は、大麦では「シュンライ」、「ミノリムギ」が平年より短く（平年比シュンライ 93%、ミノリムギ 74%）、「ホワイトファイバー」は前年より長かった（前年比 146%）。小麦では、「シラネコムギ」、「夏黄金」が平年より長かった（平年比シラネコムギ 119%、夏黄金 107%）。
- 茎数は、大麦では「シュンライ」、「ミノリムギ」が平年より少なく（平年比シュンライ 84%、ミノリムギ 63%）、「ホワイトファイバー」は前年より少なかった（前年比 78%）。小麦では、「シラネコムギ」が平年より多く（平年比 113%）、「夏黄金」が平年並（平年比 102%）であった。
- 葉数は、大麦では「シュンライ」が 9.1 枚（平年差-0.0 枚）、「ミノリムギ」が 9.0 枚（平年差-0.3 枚）、「ホワイトファイバー」が 9.6 枚（前年差+0.7 枚）、小麦では「シラネコムギ」が 8.9 枚（平年差+0.3 枚）、「夏黄金」が 8.9 枚（平年差+0.5 枚）であった。
- 葉色（SPAD 値）は、大麦は「シュンライ」が 41.9、「ミノリムギ」が 44.0、ホワイトファイバーが 44.2、小麦は「シラネコムギ」が 43.3、「夏黄金」が 40.8 であった。

図1 気象経過（古川アメダス）

2) 4月9日現在の幼穂長と生育ステージの予測 (表2、3)

10月中旬播種区

- ・大麦の幼穂長は、「シュンライ」が19.6mm (平年差-2.3mm)、「ミノリムギ」が11.1mm (平年差-6.5mm)、「ホワイトファイバー」が12.5mm (前年差-4.0mm)であった。
- ・出穂期は「シュンライ」が4月21日、「ミノリムギ」が4月27日、「ホワイトファイバー」が4月21日、開花期は「シュンライ」が4月29日、「ミノリムギ」が5月3日、「ホワイトファイバー」が5月1日と予測される。
- ・小麦の幼穂長は、「シラネコムギ」が6.0mm (平年差-0.4mm)「夏黄金」が5.6mm (平年差-2.5mm)、出穂期は「シラネコムギ」が5月3日、「夏黄金」が5月2日、開花期は「シラネコムギ」が5月14日、「夏黄金」が5月13日と予測される。

10月下旬播種区

- ・大麦の幼穂長は、「シュンライ」が11.9mm (平年差+1.0mm)、「ミノリムギ」が5.9mm (平年差-2.8mm)、「ホワイトファイバー」が10.6mm (前年差+2.8mm)であった。
- ・出穂期は「シュンライ」が4月23日、「ミノリムギ」が5月2日、「ホワイトファイバー」が4月24日、開花期は「シュンライ」が5月1日、「ミノリムギ」が5月8日、「ホワイトファイバー」が5月3日と予測される。
- ・小麦の幼穂長は、「シラネコムギ」が3.8mm (平年差-0.7mm)「夏黄金」が3.6mm (平年差-1.5mm)、出穂期は「シラネコムギ」が5月7日、「夏黄金」が5月4日、開花期は「シラネコムギ」が5月17日、「夏黄金」が5月15日と予測される。

表1 生育状況 (4月9日現在)

品種	区別	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色 (SPAD値)			
		本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	
大麦	シュンライ	中旬播種区	25.5	104	78	505	60	68	10.8	+0.1	+0.4	35.2	-7.5	-
		下旬播種区	24.1	136	93	564	72	84	9.1	-0.5	-0.0	41.9	-4.5	-
	ミノリムギ	中旬播種区	25.9	109	81	637	74	81	9.8	-0.7	-0.9	38.8	-3.3	-
		下旬播種区	18.7	92	74	473	50	63	9.0	-0.6	-0.3	44.0	-2.6	-
ホワイトファイバー	中旬播種区	26.8	102	-	552	61	-	10.0	-0.5	-	39.5	-1.7	-	
	下旬播種区	27.0	146	-	729	78	-	9.6	+0.7	-	44.2	-2.3	-	
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	23.5	81	75	765	105	110	9.8	+0.6	+0.2	37.1	+1.7	-
		下旬播種区	30.2	134	119	958	98	113	8.9	+0.1	+0.3	43.3	+0.9	-
	夏黄金	中旬播種区	30.8	128	105	703	101	97	9.5	+0.4	-0.1	39.7	+0.7	-
		下旬播種区	25.5	111	107	837	82	102	8.9	+0.4	+0.5	40.8	-5.7	-

注1) 中旬播種区は令和7年10月22日播種、下旬播種区は令和7年10月30日播種。条間25cmドリル播き、播種量は中旬播種区が9.0kg/10a、下旬播種区が10.0kg/10a。

注2) 平年値は過去7か年のうち最高値、最低値を除いた5か年の平均。草丈と茎数については、積雪で未調査の年があったため、平年値は調査を実施した過去6か年分の平均値とした。前年比・差、平年比・差はそれらとの比較。

注3) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年比・差はない。

注4) 草丈と茎数、葉色は各試験区の調査区画(1m×2条)の3か所の平均値。

注5) 葉色はSPAD502plus(コニカミノルタ社製)を用いて計測した。令和6年播種(令和7年産)から測定を開始したため平年差はない。

注6) 葉数は各試験区の中庸な株6株の平均値。

表2 幼穂長調査（4月9日現在）

品種	区別	幼穂長(mm)			幼穂分化程度	
		本年	前年差	平年差		
大麦	シュンライ	中旬播種区	19.6	+0.8	-2.3	X
		下旬播種区	11.9	+3.5	+1.0	X
	ミノリムギ	中旬播種区	11.1	-2.0	-6.5	X
		下旬播種区	5.9	-1.6	-2.8	X
	ホワイトファイバー	中旬播種区	12.5	-4.0	+12.5	X
		下旬播種区	10.6	+2.8	+10.6	X
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	6.0	+0.7	-0.4	X
		下旬播種区	3.8	-0.8	-0.7	IX
	夏黄金	中旬播種区	5.6	-0.7	-2.5	X
		下旬播種区	3.6	-1.3	-1.5	IX

注1) 中旬播種区は令和7年10月22日播種、下旬播種区は令和7年10月30日播種。条間25cmドリル播き、播種量は中旬播種区が9.0kg/10a、下旬播種区が10.0kg/10a。
 注2) 幼穂長は、各試験区の中庸な株5~6株における主茎と1号分けつ、2号分けつの幼穂長の平均値。
 注3) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年値はない。
 注4) 平年値は過去7か年のうち最高値、最低値を除いた5か年の平均。前年差、平年差はそれらとの比較。
 注5) 幼穂分化程度: V期未満は省略。

〔参考〕麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5~0.6	0.6~1.0	1.0~1.2	1.2~4.0	4.0~5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5~0.7	0.7~1.5	1.5~2.0	2.0~4.0	4.0~5.0	

注1) 幼穂分化程度はI~Xの10期に分類されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略した。
 注2) 厳密にはVII期は前期と後期に、IX期は前期、中期、後期に区分される。

表3 減数分裂期、出穂期、開花期の本年予測値

品種名	区分	減数分裂期			出穂期			開花期			
		予測値(月日)	前年値(月日)	平年値(月日)	予測値(月日)	前年値(月日)	平年値(月日)	予測値(月日)	前年値(月日)	平年値(月日)	
大麦	シュンライ	中旬播種区	4/12	4/12	4/10	4/21	4/21	4/22	4/29	4/28	4/30
		下旬播種区	4/14	4/19	4/17	4/23	4/25	4/27	5/1	5/3	5/4
	ミノリムギ	中旬播種区	4/17	4/17	4/16	4/27	4/24	4/26	5/3	5/2	5/3
		下旬播種区	4/24	4/21	4/20	5/2	4/27	5/1	5/8	5/6	5/6
ホワイトファイバー	中旬播種区	4/14	4/13	-	4/21	4/23	-	5/1	4/29	-	
	下旬播種区	4/17	4/19	-	4/24	4/26	-	5/3	5/4	-	
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	4/22	4/24	4/24	5/3	5/2	5/2	5/14	5/14	5/13
		下旬播種区	4/27	4/26	4/26	5/7	5/6	5/6	5/17	5/15	5/16
夏黄金	中旬播種区	4/23	4/24	4/24	5/2	5/2	5/3	5/13	5/14	5/13	
	下旬播種区	4/26	4/25	4/26	5/4	5/5	5/5	5/15	5/16	5/15	

注1) 中旬播種区は令和7年10月22日播種、下旬播種区は令和7年10月30日播種。条間25cmドリル播き、播種量は中旬播種区が9.0kg/10a、下旬播種区が10.0kg/10a。
 注2) ホワイトファイバーは令和6年播種(令和7年産)から調査を開始したため平年値はない。
 注3) 平年値は過去7か年のうち最高値、最低値を除いた5か年の平均。
 注4) 減数分裂期: 幼穂長が3cmに達した日。
 注5) 出穂期: 全茎の40~50%が出穂した日。
 注6) 開花期: 全穂数の40~50%が開花した日。
 注7) 予測値は麦類の生育ステージ予測シートver4.0を用いて、生育中庸な株6株の主茎幼穂長の平均値をもとに算出した。
 注8) 予測日については今後の天候等で前後する可能性がある。
 参考: [麦類の生育ステージ予測シート Ver. 4.0\(追補\)](#)